

Multimorbidity patterns and the relation to self-rated health among older Japanese people: a nationwide cross-sectional study

メタデータ	言語: en 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2024-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 本田, 優希 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000134

論文審査の結果の要旨

多疾患併存は一人の患者が二つ以上の慢性疾患を同時に併存する状態であり、とくに高齢者で多くみられ、死亡率や quality of life (QOL) など様々な健康アウトカムと関連することが注目されている。また、多疾患併存の疾患の組み合わせは多様ではあるが、特定の組み合わせと健康アウトカムとの関連も指摘されている。一方、主観的健康感 (SRH) は自ら評価する健康度で、死亡や医療サービス利用の増加等との関係が示されており、多疾患併存と関連するアウトカムの一つと考えられている。しかし、特定の多疾患併存パターンと SRH との関連は明らかにされていない。そこで、本研究では、日本の高齢者における多疾患併存の疫学およびその併存パターンを検討し、SRH と関連する多疾患併存パターンを特定することを目的とした。

申請者は、平成 25 年国民生活基礎調査の匿名データを用いて、施設入所や入院をしていない 65 歳以上の高齢者 23,730 人を対象とし本研究を行った。多疾患併存は 33 の慢性疾患の有無から、また、SRH は国民生活基礎調査の質問票を用いて 5 段階の主観的な健康評価において下位 2 段階を SRH 低値として検討した。また、両者の関連は、各多疾患併存パターン内で保有する疾患群の数 (多疾患併存パターンスコア) と SRH を用いて解析した。対象者において、多疾患併存は 40.9%、SRH 低値は 23.8%に認められた。さらに、33 の慢性疾患を国際疾病分類第 10 版の章に基づいて臓器系別の 13 の疾患群にまとめたうえで探索的因子分析を行い、i) 変性疾患 (耳、眼、筋骨格)、精神パターン、ii) 癌、消化器、腎泌尿器、血液パターン、iii) 循環器、内分泌代謝パターンの三つの多疾患併存パターンを特定した。各多疾患併存パターンと SRH との関連の解析では、年齢、性別、教育歴で調整した分析において、いずれ多疾患併存パターンスコアも SRH 低値の有意なリスク因子であったが、中でも i) と ii) との関連が強かった。

本研究は、我が国のビッグデータを用いて、日本人高齢者の多疾患併存の有病割合やその特定の併存パターンを明らかにし、さらに特定の多疾患併存パターンと SRH との関連をはじめて示した報告であり、審査委員会では高く評価した。以上より、本論文は博士 (医学) の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者	主査	須田 隆文	
	副査	山末 英典	副査 山内 克哉